

グローバル通信

長崎県立口加高等学校グローバルコース 第13号 平成30年10月18日

世界遺産登録記念講演 上智大学 藤村正之 教授とGL生の交流

10月16日(火)に行われた世界遺産登録記念講演の講師として、上智大学の藤村正之教授が来校されました。全体での講演後にグローバル生との交流の時間をいただきました。藤村教授から、南島原市の最高教育機関として、口加高校グローバルコースが世界遺産について発信する役割を担っていること、グローバルコースの一員として今後活躍するための3つの視点などをご教授いただきました。

【3つの視点】

①社会学的想像力

個人の人生が、歴史と社会構造の中にあることをイメージできること。自分は、激変する現代史における登場人物の1人であり、いずれ歴史の教科書に載るであろう出来事の体験者であることの自覚。個人史と歴史・個人の問題と社会の問題をつなげて考えること。

②深める力・比べる力

学んだことをさらに掘り下げて考えていく姿勢。学んだことと似た現象を世界規模で探し、比較する姿勢。

③英語に加えて第二外国語を学ぶこと

また、生徒からの質問にも丁寧にお答えいただきました。世界遺産を守っていくうえで必要なこと、200年以上もキリスト教文化が日本に残り続けた理由、様々な国の文化(あいさつ・宗教・ジェスチャーなど)を知ることの価値、さらには藤村先生の研究についてなど、幅広くお話をいただきました。貴重な学びの時間を作ってくださった藤村先生に、心より感謝申し上げます。



藤村正之教授(写真中央)と口加グローバルコース1・2年生



生徒の感想

- 今回登録された世界遺産は、本当に多くの人の協力ととてつもなく長い時間をかけて実現された誇らしいものなのだと再認識した。厳しい登録の条件があり、それをクリアするだけの価値が原城跡にあることがとてもよくわかった。
- 「多様な宗教文化の価値とその共存世界に提起する可能性がある」という言葉が心に響いた。私たちが今後どんな行動をとるかによって世界遺産の価値が大きく変わっていくと思う。魅力を十分に伝えていきたい。
- 講演を聞いて、世界遺産を守っていかなければならないという責任感がついた。私が生まれる前から、多くの方々が頑張ってきてくれてやっとの登録ということなので、決して無駄にはできない。地元に貢献したいという気持ちが強くなった。
- 世界遺産登録をきっかけに、これから観光客などが増えていく。そうすると新たな問題がでてくるのは間違いない。状況によっては世界遺産登録が取り消されることもあるので、現在の状態を保護していかなければいけない。また、保護だけではなく、グローバルコースとして地域や県外、海外に広めていきたい。
- 今までのように自分の視点からものごとを見るのではなく、藤村先生が社会学の立場からものごとを捉えていたように、様々な角度から見ることとおもしろいと思った。原城を取り入れた観光プランを作ったけれど、歴史を学んだうえでそれがどういう意味をもつのか、プランのターゲットとなる人はどんな興味をもっているのかなどを考え、より深めていきたい。
- 英語を学ぶことはもちろん重要だが、これから関わっていく国々の文化や挨拶について調べ、その国のことを知るといことがとても大切だという考えを得ることができた。

全体講演の様子

